



令和元年度
地域まちづくり活動助成金
活動成果概要



令和2年3月
東大阪市 協働のまちづくり部
NPO・市民活動支援課



目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要	1
各交付事業の成果一覧	2-3
活動成果概要	4-33

『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。

○選考方法

スタート支援部門	書類と面接
事業チャレンジ部門	書類と公開プレゼンテーション

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などの協働性

令和元年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

令和元年度は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏 名	選 出 団 体 及 び 役 職
会長	吉田 忠彦	近畿大学 経営学部 教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学 総合社会学部 准教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	奥田 陽子	東大阪市 協働のまちづくり部 次長

各交付事業の成果一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ 番号
1.	スタート支援	サロンとまり木	サロンとまり木	4
2.	スタート支援	まちなこ東大阪の会	ノラ猫なくし隊！！地域猫のすすめ	6
3.	スタート支援	おやじかふえトライ	おやじかふえトライ	8
4.	スタート支援	災害時のトイレ・避難所問題等を考える会	災害に強い 介護・福祉・地域づくり事業	10
5.	事業チャレンジ	ささえ愛、わかば	高齢者ふれあいサロンと介護・認知症予防推進事業・周辺地域交流事業	12
6.	事業チャレンジ	梶無神社ふれあいやさい市実行委員会	梶無神社ふれあいやさい市開催事業	14
7.	事業チャレンジ	「ひょうたん山夢街道まつり」実行委員会	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業	16
8.	事業チャレンジ	工場を記録する会	東大阪モノづくりミュージアムの進化と深化	18
9.	事業チャレンジ	特定非営利活動法人 東大阪日本語教室	企業と外国人労働者 つながる 広がる わかり合う 人づくりからまちづくり	20

各交付事業の成果一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ 番号
10.	事業チャレンジ	建築研究会あきばこ家	長屋を利用した交流拠点の創出	22
11.	事業チャレンジ	小阪中校区まつり実行委員会	小阪中校区まつり	24
12.	事業チャレンジ	NEW鴻池ファミリー フェスティバル実行委員会	NEW鴻池ファミリーフェスティバル	26
13.	事業チャレンジ	こども英語推進委員会	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップテーマ 曲「World in Union」	28
14.	事業チャレンジ	特定非営利活動法人 NPOサポート東大阪	すすめ隊 東大阪市民活動の今、これから「東大 阪市民活動調査・研究及びハンドブック作成プロ ジェクト」	30
15.	事業チャレンジ	東大阪第九シンフォニー 合唱団	あなたもベートーヴェンの第九を歌ってみましょ う！	32



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	サロンとまり木		
団体名	サロンとまり木		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	198,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	本会は地域住民が集う憩い場活動を通じて、高齢者支援の担い手となる事業を行うことを目的とする。
	内容	1 地域における介護予防・文化活動に関する情報の収集と提供事業 2 地域におけるボランティア活動に関する情報の収集と提供事業 3 地域におけるコミュニティに関するための必要な事業 4 本会にトレーナーチーム（3名）取り組み。うつ病。閉じこもり、失禁予防、高齢者になるにつれて健康体力年齢チェック、楽々トライ体操、グループワークなど介護予防活動ボランティア体調管理をしっかりとしていく。

活動 実績	高齢者が集うサロンとまり木を毎月1回開催し、健康講座を行った。 実施場所は長堂公民分館、社協センター スタッフ 25名 準トレーナー3名	
	4月	77名 健康講座 市高齢介護課「緊急通報装置」
	5月	89名 健康講座 特養レーベンズボルト「脳トレーニング」
	6月	76名 健康講座 「脳トレ、しりとり、カラオケ」
	7月	77名 健康講座「脳トレ 効果的なストレッチ体操」
	8月	夏休み
	9月	70名 健康講座「健脳、認知症、カラオケ、しりとり」
	10月	82名 健康講座「健脳エクササイズ、楽々体操」
	11月	63名 健康講座「健脳エクササイズ、認知症」
	12月	75名 健康講座「脳トレエクササイズ、認知症」
	1月	90名 健康講座「健脳エクササイズ、認知症」
	2月、3月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

目 標	<p><申請時></p> <p>月 1 回のサロンとまり木を開催する</p>	<p><事業実施後></p> <p>699人 参加 (1月まで)</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>①サロン活動を通じて、地域住民が親睦を深めることができた。</p> <p>②家で引きこもっている人に来てもらえるきっかけを作ることができた。</p> <p>③健康講座を通じて、高齢者の介護予防の情報を提供することができて、健康増進に役立てることができた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>①健康講座を通じて、高齢者が健康で生き生きと暮らせるようにしていきたい。</p> <p>②地域の協力を得られるよう、高齢者を支えられることの大切さを地域に伝えていきたい。</p> <p>③後継者を育てていきたい。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ノラ猫なくしたい！！地域猫のすすめ		
団体名	まちなこ東大阪の会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	180,000 円

事業の目的・内容	目的	ノラ猫による排泄、マーキング、発情期の泣き声などによる近隣住民間でのトラブルや、不妊手術を行わずに増えた子猫を遺棄することにより、保健所に持っていけば殺処分対象になる現状を何とかしたい。
	内容	今はボランティア主体で進めている、飼い主のいない猫（ノラ猫）を不妊手術をするTNR（ティーエヌアール）活動を地域住人主体で出来るようにする地域猫活動を進めていく活動

活動実績	<p>○啓発イベントと保護猫譲渡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナガセテクノス 6/23（来場者 54名） 7/15（37名） 10/27（20名） 12/1（33名） ・ハマグチ動物病院 7/21（12名） 8/4（13名） キャンピングカー使用 ・大阪女学院学園祭 11/17（68名） ・イオン東大阪荒本店 東大阪市主催『第1回大阪動物愛護フェス2019』 11/24（来場者多数） ・御厨東倉庫 2020/1/12（30名） 2/9 キャンピングカー使用（来場者 71名） 2/23（来場者 48名） <p>○講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『すべての命を大切に社会を目指して』公演と写真展（共催 HWJ 東大阪）イコーラム 8/17（70名） <p>○その他（啓発グッズ等作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> 猫レンジャーポスター（8/25）ノラ猫なくし隊！のぼり、ジャンパー（11/4）
------	--

<p>目標</p>	<p><申請時> 今はボランティア主体の活動を地域住人が協力して地域猫活動を進めていけるようにしたい。</p>	<p><事業実施後> 地域猫や保護猫という言葉がだいぶ浸透してきて手ごたえを感じている。</p>
<p>事業の成果・効果</p>	<p>ほぼ毎月開催している保護猫の譲渡会と啓発活動にはたくさんの方に来ていただきTNR活動によって救われた命や、保護猫のことに関心をもってもらえるようになってきた。一人一人が意識すれば、ノラ猫はいなくなり近隣住人でのトラブルも減っていくと思う。</p>	
<p>今後の事業展開</p>	<p>今後も保護猫譲渡会と啓発活動を続けて、より一層地域猫や保護猫という言葉を広めていきたい。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	おやじかふえトライ		
団体名	おやじかふえトライ		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	128,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	高齢者は社会との関わりがなくなると、認知症や病気になり「閉じこもり」が大きな社会問題となっている。このことは特に男性に多くみられる傾向にある。 この社会問題を解決するため男性高齢者（女性も可）が参加しやすい集いの場を提供する。
	内容	高齢者を地域で支えあえる居場所を創る。今、高齢者の閉じこもりが大きな課題となっている。特に男性高齢者が深刻である。そこで、男性（女性可）が気軽に参加でき楽しくすごせる場を提供し、地域の活性化を図る。

活動 実績	第 1 回	4 月 12 日（金）	参加者 20 名	
	第 2 回	5 月 10 日（金）	参加者 17 名	ギター演奏と歌
	第 3 回	6 月 14 日（金）	参加者 25 名	紙飛行機
	第 4 回	7 月 12 日（金）	参加者 20 名	河内警察署員による特殊詐欺に関する研修
	第 5 回	8 月 9 日（金）	参加者 25 名	紙飛行機
	第 6 回	9 月 13 日（金）	参加者 21 名	ギター演奏と歌
	第 7 回	10 月 11 日（金）	参加者 25 名	中消防署による防災研修
	第 8 回	11 月 8 日（金）	参加者 16 名	ギター演奏 バルーン
	第 9 回	12 月 13 日（金）	参加者 30 名	民謡、三味線・尺八
	第 10 回	2 月 14 日（金）	参加者 25 名	
	第 11 回	3 月 13 日（金）	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
	スタッフ会議	4 月～3 月迄、おやじかふえ終了後実施 毎回、催しものの検討や課題について話し合いをしている		

目 標	<申請時> 11回×30名=330名	<事業実施後> 11回 224名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>事業の成果としては、目標達成率は平均75%になります。</p> <p>月ごとでは、2回と8回の57%、53%が低く、高かったのは9回の100%です。この低かった日は、地域で別のイベントがあった事、それに加えて、8回の日は天候が悪いことも重なったためと考えられます。</p> <p>9回の高い日は、東大阪市在住の民謡歌手を招聘し三味線と尺八も楽しんでもいただきました。チラシと回覧も効果を奏したと考えられます。</p> <p>今年度は、河内警察、中消防署から来ていただいて簡単な研修を行いました。これからも、いろいろな情報を提供していくこととします。</p> <p>リピーターの参加が増えはじめておりますが、まだまだ高齢者の居場所づくりとしての定着は道半ばというところです。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>今後の事業展開として、やはり地域での周知が大切だと考えます。リピーターが増えては来ていますが、もっと気軽に参加していただけるように工夫が必要だと考えます。また、9回の参加者が多かったことから、企画も重要であると思いました。さらに、地域の情報や様々な啓発をし、居場所づくりとともに情報を得る場としても考えていきます。参加者を増やしていくために、地域の高齢者が何を求めているのか、情報を得るとともに、自治会を利用して周知を図ります。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	災害に強い 介護・福祉・地域づくり事業		
団体名	災害時のトイレ・避難所問題等を考える会		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	164,000円

事業の目的・内容	目的	地震等の災害時に於けるトイレ問題、避難所問題、災害時要配慮者対応（避難行動要支援者含む）等などの課題を講演会等によって学び・共有化し、備えることで、災害に強い介護・福祉施設・地域づくり等を目指す。
	内容	<p>災害時のトイレ問題は、地震発生時だけでなく台風などの風水害に於いて、電気が止まる、トイレが浸水（埋まる）、水道が止まる、下水道の破損など水洗トイレが使えない事象が増えて来ている。従って、災害時のトイレ問題とその対処法を学ぶ。</p> <p>自治会等からは「避難行動要支援者」対策について、「名簿だけあっても実際は役に立たない」と懸念が根強い。大分県別府市や兵庫県方式を紹介し、個別避難計画とその担い手等について、自治会、当事者、専門職等が議論し、問題意識を共有化する。</p>

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回（11月8日金曜日 18:30～） 東大阪市男女共同参画センター（イコーラムホール）101名参加 「災害時のトイレ問題どうする？」講演会 講師：チームトイレの自由 長谷川 高士 氏 災害時のトイレ対応（水を使わず、吸わせる、固める、捨てる）方法 携帯トイレの実演（会場から8名が参加） 同日会場ギャラリーで、会の活動等を紹介するパネル展示会を開催 ・第2回（3月28日土曜日 13:30～）市民多目的センター 92名定員 「災害時、気になる人の避難は大丈夫か？」講演とシンポジウム 講師：兵庫県防災企画局防災企画課 野田 政裕 氏 パネラー：自治会、障害当事者、介護福祉専門職 ・上記以外で、11月16日（土）10:00～15:00 大阪府久宝寺緑地 大阪府主催：中河内防災フェアに協働で出展 災害時のトイレ対応 ・他、防災に関する講演会を計11回開催（2019.4.～2020.2）
------	---

目 標	< 申請時 > ①災害時のトイレ対応講演会 ②災害時の個別支援計画等を考える講演&パネルディスカッション	< 事業実施後 > ①101名参加 ②3/28 開催予定で未実施※ 新型コロナウイルス関係で 3/10 頃可否判断
事 業 の 成 果 ・ 効 果	①災害時のトイレ対応は、停電や上下水道の破損等で水洗トイレが使用できない場合、『袋の中で、吸わせる・固める、捨てる』ことができる携帯トイレの有効性を確認、またその使用方法を実演で習得することが出来た。 災害時、避難所等が開設された際にトイレ環境を先ず整えることや備蓄品に必ず携帯トイレ等を必要数備えることを認識した。 ②災害時の要配慮者及び「避難行動要支援者」について、自治会・当事者・介護福祉専門職（介護支援専門員や相談支援専門員等）がお互いに議論する場を設けることができた。 ※3/28 講演会の開催は現在未定。	
今 後 の 事 業 展 開	東大阪市内の自主防災組織（校区自治連合会単位）で、①災害時のトイレ対応、②避難行動要支援者等の個別支援計画作り、③HUG（避難所運営ゲーム）等を通じた避難所の在り方など、勉強会を開催して行きたい。 また、介護支援専門員及び相談支援専門員等、介護福祉専門職についても防災に関する研修を呼び掛け、「個別支援計画づくり」の視点で、障害当事者や専門職等と地域との接点を創出して行きたい。地域コミュニティの醸成、繋がり作り、助け合いの地域づくりに向けた施策も提案して行きたい。	



イコーラムホールに多分野から 100 名を超える参加



携帯トイレの実演は参加者から（市議も登壇）



講演会の会場では会の活動紹介のパネル展を開催



11/16 府主催の中河内防災フェアに協働出展

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高齢者ふれあいサロンと介護・認知症予防・周辺地域交流事業		
団体名	ささえ愛、わかば		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	140,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	○地域には生活困窮者層が集住しており、高齢化率、単身高齢者が市内平均より突出している。昭和40年代に建設された住宅が大半であり、階段の昇降が困難なため家に閉じこもって外出頻度が少なく「孤立」している高齢者が多く、住民へのアンケート調査（495世帯）により、「困ったときに頼れる人がいない、相談できるところがほしい」、「認知症」、「介護」に対する不安が多く寄せられたため。
	内容	○高齢者の居場所づくりの開催。「介護・認知症予防推進事業」の実施。高齢者の生活向上の問題に対しての講座開催 ○障害者作業所と連携し牛乳パック回収運動や施設の紹介や講座 ○犯罪や災害時などの対応、感染症、食中毒予防の講座 ○認知症サポーター養成講座 ○流しそうめん、クリスマス会、餅つきなどのレクリエーション

活動 実績	<ul style="list-style-type: none"> ●実施期間：毎月第1・3木曜日 ●実施場所：東大阪市立長瀬人権文化センター料理室 ●関わった人：ボランティア5名 ●参加人数：818名 2/6現在 ●牛乳パック回収運動（随時） ●介護予防・認知症予防推進講座 ●アンケート調査31年4/4 36名 ●認知症予防体操31年4/18. 令和9/19 93名 ●バルーンアート作成 令和5/16 43名 ●食中毒に注意 令和6/6 41名 ●介護予防体操 令和6/20.11/21 90名 ●災害時のトイレ事情について 令和7/4 46名 ●フリーサロン 令和7/18.9/5.12/5 128名 ●流しそうめん 令和8/1 55 ●認知症サポーター養成講座 令和10/3 48名 ●障がい者作業所の紹介としおりづくり 令和10/17 44名 ●落語会 令和11/7 47名 ●クリスマス会と演奏会 令和12/19 53名 ●もちつきと詐欺等の注意喚起 令和2年1/16 49名 ●マジック 令和2年2/6 45名
----------	---

<p>目 標</p>	<p><申請時> 800人を目標に掲げて実施。新規講座や他団体との交流で参加者を増やしていく。</p>	<p><事業実施後> 800人の目標設定が3回を残し818人が参加。アンケート調査の結果も分析し利用者のニーズが分かった。様々な団体との交流によりお互いの立場がより一層理解できた。</p>
<p>事 業 の 成 果 ・ 効 果</p>	<p>○開始から5年が経過しようとしている中において、地域周辺の拠点となり高齢者の孤立や孤独の解消。「つぶやき」「困りごと」「悩み」などが相談できる「居場所＝サロン」になっている。 ○新規事業として同事業申請団体と「災害時のトイレ」について講座を実施してもらい横のつながりも構築できた。 ○高齢者が抱えている生活上の不安を払拭するために講座を開催し住みやすい地域づくりに向けて活動ができた。 ○牛乳パック回収運動やフードバンク大阪についての活動を実施することにより資源と食べ物の大事さを理解できた。</p>	
<p>今 後 の 事 業 展 開</p>	<p>○事業を実施するにおいて継続するもの、社会の変化に応じて新たに取り入れるものを状況に応じて追及していく。 ○地域周辺には地域財産（障害者作業所）（児童館）（隣保館）（近畿大学）など沢山あり連携した取り組みを進め世代間を超えた居場所にしていく。 ○助成金のない時代に向けて、参加者の増加やメニューの見直し開発に向けて営業努力もしていく。 ○参加者の声（アンケート）などを実施しサロンの資質向上に繋げていく。</p>	



認知症サポーター講座



餅つき大会



災害時のトイレ事情



クリスマス会

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	梶無神社ふれあいやさい市開催事業		
団体名	梶無神社ふれあいやさい市実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	109,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	地域の神社として、地域に開かれた農産物直売市(マルシェ)の開催による地産地消と食の安全の推進、そして独居老人を含む住民交流の場の提供と、地域の歴史・文化等のミニ講座を開催して地域住民の地域への愛着を深め、お互いに助け合う安全安心なまちづくりを進める。
	内容	地域に根差す神社として、地元の米・野菜・果物・花等の作り手が出店しての産直マルシェを定期開催し、生産者と消費者の交流、顔が見える食の安全への寄与、地元商店の活性化、住民同士の交流、地域の歴史・文化の共有・紹介など、マルシェを通じて周辺地域を盛り上げる。

活動 実績	<p>梶無神社ふれあいやさい市は、梶無神社の境内で毎月第三日曜日の 4、月 21 日、5 月 19 日、6 月 16 日、7 月 21 日、8 月 18 日、9 月 15 日、10 月 20 日、11 月 17 日、12 月 15 日、1 月 19 日、2 月 16 日、3 月 15 日(予定)の計 12 回実施した。出店数は、各回 5 店～8 店で、ミニ歴史講座は 12 回開催した。住民の参加者数は、各回 150 名～400 名、延べ 4,200 名(見込み)。広報活動は、協力団体の地域支援包括センターなるかわ苑が、毎月縄手南校区の各自治会掲示板にポスターを掲示し、各町会に広報紙を回覧して頂いた。当会でも各自治会・子供会・老人会等の立看板約 100 基、及び個人宅・商店・銀行等に開催ポスターを毎月掲示し、のぼりをたてて、広報に努めた。また神社行事や縄手南小学校に於ける青年団主催のふれあい祭りにも、やさい市の出店者が出店参加して住民交流を進めた。</p>
----------	---

目 標	<申請時> 参加人数 5,000 名	<事業実施後> 参加人数 4,200 名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>緑豊かな神社境内において産直マルシェを毎月開催することにより、延4,200名の地域住民の参加があった。参加者は、新鮮で顔が見える地元の農産物を購入でき、食に対する安心感が高まり、地産地消の促進が図れた。また生産者と消費者の会話も推し進めることができ、顔が見える食の安全への寄与ができた。ミニ歴史講座では市立郷土博物館との連携によって参加者に地域の歴史文化の発信ができ、回を重ねるやさい市には、高齢者・独居老人の参加も増え、大道芸を楽しむ人や健康相談の待ち時間や会場での会話が弾んだことによって住民同士のふれあい・連帯感が強まり、お互いに助け合う安全安心なまちづくりに寄与できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>ふれあいやさい市を今後も継続的に毎月開催することにより、食に対する安心感を推し進め、地産地消の促進を図りたい。やさい市の本年度参加者数減少の原因を調べて対応策を実施し、住民の参加者増加を図って、住民同士のふれあいを促進し、お互いに助け合うまちづくりを進めたい。引き続き市立郷土博物館との連携を図り、やさい市での“出前講座”によって、住民への地域の歴史文化の発信をより強く推し進めると共に、伝統芸能・南京玉すだれ、皿まわし、筑波山名物・ガマの油売り等の大道芸の開催により、やさい市をより楽しめる場として盛り上げていきたい。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業		
団体名	「ひょうたん山夢街道まつり」実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	100,000 円

事業の目的・内容	目的	生駒山麓に位置する当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信し、興味と関心の輪を広げ、郷土への愛着と誇りを育む。また、地域の賑わいの創出、人々の交流の促進を図る。
	内容	この地域を南北に貫き、古来より、京の宮人や戦国武将が多数往来し、歴史に彩られた東高野街道を舞台に、市民参加による「時代行列パレード」をメインとしたイベントを開催し、地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信する。

活動実績	<p>① 「ひょうたん山夢街道まつり通信」の発刊・情報発信 (第7号：4月15日 B地域自治会配布)</p> <p>② 「市民ふれあい祭り」パレードに参加、取り組みアピール(5月12日)</p> <p>③ 瓢箪山中央商店街ちびっこまつり 甲冑写真コーナー出店参加(5月19日)</p> <p>④ 「第5回ひょうたん山夢街道歴史トーク」 (8月25日、四条リージョンセンターにて開催) 【第一部】郷土歴史トーク「楠公さんと東高野街道」及び史跡案内 【第二部】旭堂南龍講談会「楠正成」 ・写真展「セピア色の郷土」併設(2階ミキギャラリー) (入場者) 約140人</p> <p>⑤ 「第5回ひょうたん山夢街道まつり」(11月3日) 旭町子育て支援センターから四条リージョンセンターまでの間約1Kmを東高野街道の歴史を振り返り、参加者手作りの装束で武将や宮人に扮し、「時代行列パレード」を実施。併せて、駅前広場で、地元グループの参加による大道芸やジャグリング、河内音頭などのイベントを開催。 (パレード・イベント参加者 約100人)</p>
------	---

目 標	<申請時> 時代行列パレード、イベント 参加者：100名	<事業実施後> 地元ジャグリングクラブの子ども達の参加、 大商大ボランティアサークルの若い人達の参加 協力が得られた。：100名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>地域の歴史を掘り起こす「歴史トーク」の開催並びに時代行列パレード等市民参加によるイベントの開催により、当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力の再発見、興味と関心の輪を広げることができた。</p> <p>また、地元自治会をはじめ商店街、企業、関係団体の支援や高校、大学生など若い人達の参画により、地域の賑わいづくり、コミュニティの活性化にも寄与できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・今回で5回目の開催となり、地域での認知度も高まってきた。継続した取組みとするために、引き続き地元関係団体や商店街への働きかけを行うとともに、取組みに賛同、協力いただける人材の発掘に努める。また、イベント開催に向けては、高校・大学との連携を更に密にし、若い人達の参画の輪を広げていく。 ・将来ビジョンとして、商店街開催事業との共同開催などの手法も視野に入れ検討していく。 	



「市民ふれあい祭り」パレード参加



「サンロード商店街ちびっこまつり」甲冑写真コーナー（5/19）



「歴史トーク」第二部 旭堂南龍講談会



「夢街道まつり」時代行列パレード

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪モノづくりミュージアムの進化と深化		
団体名	工場を記録する会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	607,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	東大阪モノづくりの歴史と現状を理解し、「これからのモノづくり」について考えることができる展示をめざしている。昨年度、壁面パネルによる常時展示を実現したが、モノの陳列については応急にアクリルケースを1台試作したのにとどまった。モノづくりの実感には、モノの展示・陳列が欠かせない。本年度は、見やすく、しかも管理や陳列替えがしやすいケースを製作する。
	内容	展示と陳列を最新のノウハウで更新する。モノとしての製品陳列に加えてストーリーを語るコトの展示をめざす。これが事業名にある「進化」である。このためには企業へのヒアリングと記録が欠かせない。地域との連携、企業からの支援を両輪に地域産業史を掘り下げ、現在のまちづくり活動を担う市民・企業に注目して発信する。これが事業名にある「深化」である

活動 実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～6月 特別展示「楠根のモノづくり&まちづくり」を準備する。 ② 5月25日 ワークショップばねのおもちやを開催 ③ 6月 アクリルケース見積り・発注。 陳列品の手配。 ④ 7月 <ul style="list-style-type: none"> ・20日 「楠根のモノづくり&まちづくり」オープン ・27日 夏休み企画「ダンボール工作教室」 ・28日 旧河澄家での「東大阪産業写真展」に協力 ⑤ 8月 アクリルケース設置、陳列 28日～9月8日 東大阪市民美術センター「町工場写真展」協賛 ⑥ 9月18日 専修大学ゼミのフィールドワークを案内 ⑦ 11月8日 城工メッセ（府立城東工科高校文化祭）に出展 ⑧ 12月8日 府立中之島図書館でトークショー ⑨ 1月14日 市役所「協働推進員研修」高井田巡研コーディネート <p style="margin-left: 20px;">【実施できなかったワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月21日 「体感まち博」申込がなかったため ・2月29日 「貯金箱かいじゅう」新型肺炎感染拡大防止のため
----------	---

目 標	<申請時>	<事業実施後>
	特別展示 150名 夏休み企画 20名 ワークショップ 40名	特別展示 250名 夏休み企画 30名 ワークショップ 50名
事業の成果	<p>陳列の効果は大きかった。子どもが見入る、親が説明する、そのような光景が繰り返された。3ヶ月を目途に陳列の様様替えを行っている。ワークショップ協力企業の紹介が陳列でできることも有効であった。今後の展開が楽しみである。</p> <p>地域に着目した特別展示「楠根のモノづくり&まちづくり」には熱心な参観者が目立った。やはり身近な企業、地域の活動を示していることが吸引力を発揮している。この経験は今後活かしていく。</p> <p>事業名にした「進化と深化」を着実に実践したと自負している。</p>	
今後の事業展開	<p>まず取り組むのは、昨年5月19日の申請公開プレゼンで審査委員よりアドバイスいただいた「東大阪市域の企業で働く外国人労働者」に関する発信である。毎年11月3日に開催されている「国際交流フェスティバル」で知り合ったベトナム人技能実習生、そして長年お世話になっているベトナム現地法人設立のモノづくり企業にヒアリングし、展示作成の作業を始める。</p> <p>次に地域に注目した特別展示は「電車をつくり鉄道を支えてきたモノづくり企業」を取り上げて東大阪のモノづくりをアピールする準備に入る。</p>	

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 成果報告会

東大阪モノづくりミュージアム

進化 と **深化**
陳列の充実 と **地域との連携**

2020/5/14

工場を記録する会

アクリル・ケースを用いた陳列



地域との連携

2020/5/14



夏休み企画ダンボール工作教室

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	企業と外国人労働者 つながる 広がる わかり合う 人づくりからまちづくり		
団体名	特定非営利活動法人東大阪日本語教室		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	500,000 円

事業の目的・内容	目的	東大阪に暮らす技能実習生やエンジニアなど外国人労働者の多くは十分な日本語能力を保持しておらず、企業を含む地域の人々の関心も低い。学習の機会を持った外国人労働者は、日本語能力はもちろろん、企業にとっても戦力となり活躍をしている。そのような外国人労働者が増えることが地域にとっても望ましい。そこで企業側に「外国人労働者の日本語学習の時間の確保」を呼びかけ、外国人労働者を使い捨ての労働力とするのではなく、共に成長し合える仲間として受入れられる社会を構築していくことを目的とした。
	内容	1) 講座の開催 (全 5 回) 令和元年 6 月～12 月 2) 交流会 (全 5 回) 令和元年 7 月～令和 2 年 3 月

活動実績	<p>1) 企業向け講座 第 1 回 7 月 22 日 (月)、第 2 回 7 月 30 日 (火) 人づくりからまちづくり「外国人労働者と日本語」 講師：宮本敬太氏、富井和広氏 会場：東大阪市立市民多目的センター 参加者：38 名</p> <p>2) 市民向け講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回 8 月 17 日 (土) 会場：東大阪市立市民多目的センター 外国人労働者とのコミュニケーション能力を高める職場づくり 講師：宮本敬太氏 参加者：42 名 ● 第 2 回 11 月 17 日 (日) 会場：大阪樟蔭女子大学 多文化社会のコミュニケーション「多様性」を考える 「やさしい日本語」を使ってみよう 講師：有田佳代子氏 参加者：52 名 ● 第 3 回 1 月 12 日 (日) 会場：東大阪市文化創造館 災害時における外国人への支援を考える 講師：岩城あすか氏 参加者：39 名 <p>3) 市民向け交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回 8 月 25 日 (日) 会場：クレアホール・ふせ 話そう 知ろう あなたと私の〇〇 参加者：102 名 ● 第 2 回 12 月 15 日 (日) 会場：大阪樟蔭女子大学 ご近所の外国人と交流しよう 参加者：165 名 ● 第 3 回 1 月 12 日 (日) 会場：東大阪市文化創造館 災害時における外国人への支援を考える 災害時、あなたはどんな行動を取りますか!? 参加者：70 名 ● 第 4 回 2 月 2 日 (日) 会場：東大阪市文化創造館 外国人労働者と家族 子どもたちのみらいのために 日本語支援と母語継承「世界を遊ぼう！読もう！知ろう！」参加者：226 名 ● 第 5 回 3 月 29 日 (日) 会場：東大阪市文化創造館 地域日本語教室参観日・見学・体験会 ※中止 (新型コロナウイルス拡大防止のため)
------	--

目 標	<申請時> 地域の企業で活躍できる外国人労働者が増加すること。 地域に暮らす外国人と市民が相互理解することにより円滑な地域社会を構築すること。	<事業実施後> 外国人労働者のみならず、その家族である児童生徒に対する啓発活動も行うことができた。また、地域の大学生や留学生など若者を含む多くの市民が集まり相互理解を考える場となった。
事業の成果・効果	【目標達成できたこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者を取り巻く現状を市民に伝えることができた。 ・外国人労働者を雇用している、これから雇用する予定のある企業の方と問題点の共有、情報提供ができた。 ・日本語支援について関心を持ってもらうことができた。 ・複数の団体から理解と協力を得ることができた ・多くの方に広報が可能となりより多くの市民に参加してもらえた。 ・地域の日本人と外国人との交流の場を多く設けることができた。 ・外国人労働者の家族である子ども（児童生徒）に対する日本語支援と母語継承の大切さについて啓発することができた。 →これらの成果により、外国人と市民の円滑な地域社会構築に効果があることを期待する。	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに理解を深められるような交流会を今後も実施する。 ・さらに多くの方に参加を促し、より多くの人々に理解を求める。 ・「やさしい日本語」を広めるためのリーフレット等の作成。 ・協力団体との交流を続ける。 →今回の地域まちづくり活動助成金活動を通して出会った方々と継続的に問題の共有や協力を続けて行きたい。また、一人でも多くの理解者、支援者を増やす取り組みも今後継続して行って行きたい。	

講座



交流会



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	長屋を利用した交流拠点の創出		
団体名	建築研究会あきばこ家		
助成区分	事業チャレンジ 部門	助成金額	140,000 円

事業の目的・内容	目的	地域の世代間や団体間、地域の方たちと学生などのつながりが希薄になっていることから、拠点となる長屋のイベントスペースで学生主体のイベントや、イベントスペースを利用されている地域の方たちと一緒にイベントを開くことで交流の機会を構築する。そして、地域の商店会や自治体、近畿大学の学生、住民の方たちの交流拠点事業を発展させる。
	内容	ながせのながやのイベントスペースを会場とし、地域の周辺住民、近畿大学の学生、地域周辺の小学校の生徒等を対象とし、イベントを開催する。また、イベントスペースを地域の方のチャレンジショップの場所として貸し出す。

活動実績	6/16	第4回わくわくフェスタ七夕まつり(108名)
	8/ 3, 4, 5	寺子屋イベント(9, 16, 18)
	/25	月1イベント「英語イベント」(2)
	9/ 8	月1イベント「めだかイベント」(47)
	10/27	第5回わくわくフェスタ(43)
	11/ 3, 4	Trap コラボイベント(130)
	/24	長瀬丸ごとイベント「まなびや通りフェスタ」(約300)
	12/21	月1イベント「クリスマスイベント」(70)
	1/11	餅つきイベント(60)
	2/ 2	月1イベント「段ボールイベント」(41)
	/16	第6回わくわくフェスタ(23)
	3/22	月1イベント「食バトル！」(延期)
		ヨシナガセ(延期)
		※()内は参加人数実績

目 標	<p><申請時> イベントの来場者：年 200 人 （一回のイベントに 40 人） イベントスペースの貸出： 月 120 時間</p>	<p><事業実施後> イベントの来場者：年約 800 人 （イベント一回あたり 80 人） イベントスペースの貸出： 月 103 時間（2 月利用時間参考）</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>長屋はイベントスペースとして利用していただくことで地域の交流拠点として発展している。全体として昨年よりも多くイベントを開催し、年間 800 名と目標に対し 4 倍ほど多くの来場があった。これに伴いイベントスペースの貸し出し団体数の増加（8 団体→11 団体）や、他の改修依頼、その他活動依頼に繋がる等の効果があった。今年度から取り組んでいる、長瀬丸ごとイベント「まなびや通りフェスタ」では来場者数が今年度最多となる 300 名を記録し、商店会や自治会とともに目標としている地域ぐるみでの居場所の促進と長瀬を中心とした地域のさらなる発展に繋がっている。また、大学にも活動が認められ学内での活動スペース（ACT スペース）を用いた他学部との連携や、他団体、行政からの視察等、大学生が行う改修・まちづくり事業のモデルケースとして長屋の周知が進んでいる。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>設立 50 年以上である近畿大学建築会学生部建築研究会を母体とし毎年新入会員の募集を行う。毎年 50 人以上の新入会員が加入する建築研究会、近畿大学の総合社会学部や経営学部等からの参加者が見込まれるため団体として継続的に運営することが可能である。またイベントスペースではレンタルスペースとして、住居側では学生用住宅として貸し出していくことで収益を上げ運営の自立を図る。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	小阪中校区まつり		
団体名	小阪中校区まつり実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	500,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	このまつりは、小阪中学校校区（小阪、八戸ノ里地区）の住民相互の出会いと楽しみを提供し、“地域愛”を育むことが最大の目的です。 今回も校区内にある施設である、東大阪アリーナを借用し、地元企業とコラボしながら楽しい一日を演出。
	内容	本まつりの前身は「教育協議会のおまつり」（発表会）のため、まつりは2部制とする。 <1部>校区の幼稚園児、小学生、中学生のダンス、斉唱、演奏、教職員によるステージ発表 <2部>ダンス甲子園、もぐもぐ横丁、フリーマーケット等

活動 実績	<p>平成 12 年、実行委員会として発足。「小阪中校区まつり」の企画、運営は 7 回目を迎えます。実行委員は小阪、八戸ノ里地区にお住まいの 40 名ですが、その他にも近畿大学のボランティアスタッフや当日お手伝いの PTA スタッフ約 40 名、企業、行政の PR スタッフを含めると 200 名を超える大勢の人たちで運営しました。</p> <p>平成 25 年 10 月 26 日「第 1 回小阪中校区まつり」開催 平成 26 年 10 月 25 日「第 2 回小阪中校区まつり」開催 平成 27 年 9 月 23 日「第 3 回小阪中校区まつり」開催 平成 28 年 10 月 23 日「第 4 回小阪中校区まつり」開催 平成 29 年 10 月 1 日「第 5 回小阪中校区まつり」開催</p> <p>開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約 20000 名 平成 30 年 9 月 24 日「第 6 回小阪中校区まつり」開催 開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約 21000 名</p> <p>通年、6～7 回の実行委員会、各委員会は随時開催（企画委員会・8 回） スタッフ間の打ち合わせも随時</p>
----------	--

目 標	<申請時> 来場者数 21,000名	<事業実施後> 来場者数 21,000名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>今回で7回目の開催という事で、スタッフ間の連携や事業運営自体もスムーズに進行できるようになりました。これも小阪中学校区を中心とする学校園、PTA、地域団体、地元企業、大学など幅広い年齢層の方々が一つとなって、企画から運営まで様々な議論を重ねてきた結果であると実感しております。</p> <p>スタッフの入れ替わりで、そこからまた新しい出店、ステージの参加者を増やすことができ、たくさんの来場者で賑わうことができました。</p> <p>”地域愛”の向上を図るため、子どもとシニア世代との交流も例年人気があり、水鉄砲を竹で熱心に作る子供たちをみていて、徐々にではありますがより一層の地域に密着したまつりにすることができました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>今回で7回目の開催、そして地域の方たちにもかなり浸透してきたこともあり、参加したいという団体はかなり増えてきました。ただ助成金が最後ということもあり運営資金の調達、そして場所の確保など、一度全体的なプログラムの見直しを検討する余地があります。</p> <p>今後は、更に”地域愛”の取組に力を入れていくという意味では、引き続き子どもから大人まで地域の参加してくださる団体の呼びかけ、他地域との交流、そしていろいろな企画も考えて参加する皆さんが楽しんでいただける事業を作り出していくことが望ましいと考えております。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	NEW 鴻池ファミリーフェスティバル		
団体名	NEW 鴻池ファミリーフェスティバル実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	129,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	子育て・教育・まちづくり・仲間づくりを考える人達が集い交流する場、家族みんなで楽しい時間を過ごす場をと、住民参加のイベント（フェスティバル）を開催する。
	内容	中央舞台：地域子ども達、保護者、住民および地域に勤務する人達による歌やダンス、太鼓、バンド演奏など 子どもコーナー：移動動物園、手作り遊びコーナー、地域文庫による緑陰図書コーナーなど 模擬店、バザー、ワークショップを同時開催

活動 実績	<p>* 実行委員会の開催 (準備会)5/22 ①6/26 ②8/7 ③9/11 ④10/23 ⑤11/5 (反省会)12/16、1/29</p> <p>* 6月 実行委員募集</p> <p>* 7、8月 参加者（出演・出店）募集 協賛金募集</p> <p>* 9月 プログラム作成配布</p> <p>* 参加者説明会 10月23日（水）19:00～20:30</p> <p>* フェスティバル前日準備 11月23日（土）14:00～</p> <p>* フェスティバル開催 11月24日（日）</p>
----------	---

<p>目 標</p>	<p><申請時> 参加者同士がより交流できるよう工夫したい。子どもコーナー（体験・ワークショップ）を充実させたい。</p>	<p><事業実施後> 自治会をはじめ地域内の様々な方々の協力が増え、昨年をも上回る大盛況となった。ただ、実行委員の手が足りず子どもコーナーはやや低調なものとなった。学生ボランティアも10名を超えてきていただけたが参加者・来場者への対応も十分ではなかったと反省している。</p>
<p>事業の成果・効果</p>	<p>子ども中心の舞台や、無料で入れる移動動物園、多彩な模擬店・ワークショップなど魅力あるイベントとなり、来場者は会場満杯となった。時期も秋の終わりで様々な行事の最後の催しということもあるのだろうか、この日1日地域を活気づけることができたのではないだろうか。準備段階から地域の商店、医院、福祉団体、ボランティア団体とのつながりを図り、今回は成和小学校区内のすべての自治会長さんを訪問し、快くご理解ご協力をいただいた。このことも来場者の増加につながったのだと思う。</p>	
<p>今後の事業展開</p>	<p>助成金を受けての2回の取り組みは、少ない実行委員メンバーで、尚且つ中心メンバーが子育て世代であることもあり、かなり負担の大きなものであった。今後取り組んでいく上で体制をじっくり見直そうとの意見が出ている。参加者へのアンケートも行ったが概ね継続が望まれている。内容の充実、安全対策、取り組み主体の拡大などしっかり検討したうえで自戒を取り組みたい。</p>	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップテーマ曲 「World in Union」		
団体名	こども英語推進委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	300,000 円

事業の目的・内容	目的	「ラグビーのまち東大阪市」を今以上に市民に浸透させる為、音楽を手段にし、大人から子どもまで皆がラグビーとの関わりを持てる環境を作る。これにより世代を超えた人の繋がりを生み地域活性化につなげる。
	内容	ラグビーの街東大阪市を背景にラグビーに関する行事などに積極的に参加、また地域イベントや学校行事への参加やラグビースクールやラグビーチームの試合等で国歌斉唱、施設訪問などを行う。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・花園の市場自治会館にて月1回の練習。 ・5月12日東大阪市民ふれあい祭り参加 ・5月26日環境フェスティバル参加 ・8月3日廣瀬 俊朗氏が発起人の「スクラムユニゾン」に花園ラグビースクール、日新高校ラグビーチーム、枚岡中学ラグビークラブ、と共に参加、トンガ国歌を歌う ・9月8日ラグビー応援イベント「東大阪ゴスペルサンデーフェスティバル」開催 <p>東大阪で活動しているゴスペルグループ3団体、ダンスチーム、総勢200名と観客250名と共に「World in Union」を大合唱。</p> <p>カレーパンの提供、公益財団法人大阪観光局によるラグビー兜の提供、ラグビースクールからの応援もあり、盛況に終わりました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月9日教会においてボランティアコンサート出演
------	--

目 標	<p>＜申請時＞</p> <p>ラグビーチームとの連携、東大阪初のラグビー応援ゴスペルグループとしての定着</p> <p>9/8 観客動員数 300 名、出演者 300 名</p>	<p>＜事業実施後＞</p> <p>東大阪初のラグビー応援ゴスペルグループとして認知度が上がる。</p> <p>9/8 観客動員数 232 名、出演者 264 名</p> <p>（花園トライクワイヤー140 名、ダンススタジオデイジー80 名、小阪シオンクワイヤ 15 名、シオンマスクワイア 17 名、 east joyful offering 12 名）</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>9/8 ラグビー応援イベント「東大阪ゴスペルサンデーフェスティバル」において、全ての参加者からラグビーを歌で応援したい、と共感いただき出演者及び観客が一体となり盛況のうちに終わりました。</p> <p>東大阪各地域の店舗等からポスター掲示の申し出があったり、ボランティア12名の申し出があったりとラグビーと歌を通じて人や地域との繋がりができた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>ラグビー関連のイベント等に積極的に出演、ラグビースクール等との連携を深め、ラグビー応援ゴスペルグループとして地域に根付いた活動を行う。</p> <p>4 月よりラグビースクールのスクール歌の作成及び録音予定</p>	



5/12 東大阪市民ふれあい祭り



5/26 塚本フェスティバル



8/3 スクラムユニゾン

9/8 東大阪ゴスペルサンデーフェスティバル



11/9 教会ボランティア
コンサート

令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	すすめ隊 東大阪市民活動の今、これから 「東大阪市民活動調査・研究及びハンドブック作成プロジェクト」		
団体名	特定非営利活動法人NPOサポート東大阪		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	580,000 円

事業の目的・内容	目的	市民活動に必要な人財・拠点・資金のノウハウなどをわかりやすく解説し、市民・大学・企業・行政等との連携の具体的な手法にも言及した、市民目線でまとめられたハンドブックが必須である。人々がふれあいながら社会参加し、地域で支え合って歩める東大阪をめざす。
	内容	市民活動に関心のある市民、企業・自治会・行政等の関係者などが、コミュニティ活動の現状と課題について学習し、地域ごとの広範かつ持続的な活動を支援する方策について意見交換を行う。できれば、東大阪の現状に則り、実現可能な支援策の提言を試みたい。例えば、リージョンセンターの活性化も含めたコミュニティ・シンクタンク構想のような、広範かつ持続的なまちづくり組織をめざすもの。

活動実績	<p>6月15日(土)第1回研究会前年度の総括と今年度の調査研究方針</p> <p>7月25日(木)第2回研究会 長瀬「コミュニティ組織Aへのヒアリング」</p> <p>8月14日(水)第3回研究会 瓢箪山「コミュニティ組織Bへのヒアリング」</p> <p>9月26日(木)第4回研究会自治連合会長宅「コミュニティ組織ヒアリング」</p> <p>10月5日(土) 公開研究会「市勢統計と地域カルテ」奥野修氏</p> <p>11月25日(土) 第5回研究会「市民活動の拠点としてのリージョンセンターなどの役割」</p> <p>12月6日(金) 第6回研究会冊子編集会議(原稿作成に向けて)</p> <p>1月17日(金) 第7回研究会冊子編集会議(原稿すり合わせ・講演会準備)</p> <p>2月8日(土) 公開講演会「住民自治と公民協働」阿部昌樹氏(大阪市立大学大学院法学部教授)文化創造館支援室にて</p> <p>3月3~20日 冊子作成編集会議、作業、印刷</p> <p>3月25日~(予定) 冊子配布、発送作業</p> <p>申請時の手引書的な内容より、審査員の助言を頂き実践事例の紹介に重きを置いた内容となった。</p>
------	--

目 標	<申請時> ①市民活動団体のメンバーなどが研究会などを通じ毎月交流する②コミュニティの中核たる自治組織について、今年度3回以上、ヒアリングの機会を持つ ③昨年度までの蓄積も含めて、まちづくりの手引書及び提言書を作成する	<事業実施後> ① 毎月開催 合計 12回 ② 7. 8. 9月3回 様々な地域活動団体にヒアリングを実施した 同時に八尾、池田市へも訪問した ③ 東大阪市民活動冊子 LINK を作成
事業の成果・効果	本年の助成金申請時には、「協働のまちづくり部」が無くなるとは想像もしていなかった。8年間の部の活動を市民活動の当事者として見てきた側としては「協働」を掲げた部署がなくなるのは残念でならない。それを知り、よりよい提案を目指したが、当方の力不足も同時に痛感。行政とは協働が進まないまま3年間の助成金を終えることには申し訳ない思いである。本来は、協働を実践すべき3年目を目指していたので、力不足と協働の困難さを感じている。しかし、八尾市民活動センターや池田元市長を訪問し、他市の現状を認識できたことは、助成金を受けた賜物であると感謝している。 成果としては、冊子を作れた事と、10数年前に市が助言を頂いた教授による勉強会も開く機会を得たこと、市が当初目指したリージョン構想なるものを再確認し、十数年後の現状との乖離を市民側として認識できた事である。	
今後の事業展開	3年間の研究会を開催した成果で様々な活動をされている人たちと出会うことができた。これを次の展開に繋げていき、市民活動ネットワークによる会合を定期的にかけて情報交換と知恵の持ち寄りができる場=L I N K（と称する）を作る。 1. LINK というコミュニティシンクタンクとなる知恵の集まりの構築 2. 定期的な情報交換会の開催 3. 年2回 勉強会の開催を通してネットワークの維持を図る	



令和元年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	あなたもベートーヴェンの第九を歌ってみましょう！		
団体名	東大阪第九シンフォニー合唱団		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	100,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	本市では合唱活動が衰退している現状がある。小中高大学生に顕著に見られ、年々活動人数の減少が進んでいる。それはカラオケやTVゲーム等、個人的活動が主流の社会状況が考えられる。また人々の繋がりやコミュニケーション力不足が顕著になっているのも要因と考えられる。そんな今こそ様々な世代が集い、共に音楽を創造する合唱活動の場を提供し、幅広い世代が集う事業企画で潤いのある東大阪市の街づくりを実現する一助を目的とした。
	内容	<p>1) 東大阪市在住を中心とした小・中・高・大学生をはじめ高齢者を含む一般参加者を募集し、4月からの「第九」の練習活動を行う。</p> <p>2) 9月より合同練習活動を行い、12月22日(日)開催の『ベートーヴェン第九シンフォニーの調べ』に出演。オーケストラをバックに練習の成果を市民に発表する。</p>

活動 実績	<p>1) 広報チラシ<公民館等の公的機関に配置依頼> 公立の幼小中学校などの教育機関私立や府立の中・高等学校の案内配布し、広報活動を行う。</p> <p>2) 2月に一般参加者説明会を実施したところ、3月末までに小中学生14名を含む90名を超える参加者が集まった。</p> <p>3) 4月より月2回、日曜日の午後1時30分～3時30分の2時間、一般参加者練習を行った。(8月末までに計9回実施) 小学生や合唱未経験者には、別室にて初心者練習も行う。同時に各自が家庭にて自主練習できる「パート練習CD」を配布。</p> <p>4) 東大阪市ふれあい祭り「ふれあいタウンステージ(八戸ノ里)」に出演し、「第九コンサート」の一般参加募集や演奏会の情宣活動を実施</p> <p>5) 9月より月1回、合唱団員との合同練習を実施。毎回80～120人の参加者により、小中学生や未経験者の方々に「第九」4楽章の『歓喜のうた』の大合唱を体験していただいた。</p> <p>6) 演奏会前日に創造館大ホールで、約170名の合唱団と60名のオーケストラによる大合奏を体験していただいた。</p> <p>7) 12月22日(日)『第九シンフォニーの調べ』演奏会(観客1400名)</p>
----------	--

目 標	<申請時> 一般参加者 70 名 合唱愛好者のみならず、合唱音楽活動を通して、市民参加活動につながる街づくりの一助とする。	<事業実施後> 一般参加者 90 名 より多くの市民が集い、合唱活動を通じたコミュニケーション活動で、文化あふれる街づくりの実現につなげる。
事業の成果・効果	【目標達成できたこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・当初の募集人数（50名）を大きく上回る一般参加者（90名）を集めることが出来た。 ・潜在的に多くの一般市民が共に歌う（合唱する）場を東大阪市内で求めていることを知ることができた。 ・東大阪第九シンフォニー合唱団として市民が気軽に「第九」練習や演奏会に参加できる場を設定できた。 ・フルオーケストラと一緒にベートーヴェンの『第九』ステージに出演し、本市の新ホールで日常では味わえない感動を体験することができた。 	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もさらに多くの一般市民参加を募り、合唱音楽を通じたコミュニケーション活動を続け、文化あふれる街づくりに繋げていきたい。 ・小中学生や高校、大学生の参加者を増やす活動を継続することで、合唱音楽の楽しさを味わい、文化あふれる街づくりの担い手を育てていきたい。 ・地域音楽活動の更なる向上と文化あふれる街・東大阪を目指し、より多くの音楽愛好者が「共に歌う場」を提供し続けたい。 ・街づくり活動助成金活動通して、音楽文化あふれる街づくりを実現したい。 	



2月説明会



6月一般参加者練習



11月合同練習



初心者対応練習



本番直前の子どもたち



12月22日文化創造館



東大阪市役所 協働のまちづくり部 NPO・市民活動支援課

T E L . 06-4309-3350 F A X . 06-4309-3812

Email : npo-shimin@city.higashiosaka.lg.jp